

2021-22 年度RI会長 シュカール・メータ (カルカッタ: マハナガールRC) 第2820地区ガバナー 新井和雄 (下館RC)

国際ロータリー 第2820地区(茨城) 第1分区 日立港ロータリークラブ週報

2021. 9. 9



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



会長 佐藤邦裕 会長エイト 山口憲生 幹事 菅原光雄



■ 事務局	日立市大みか町 2-28-5 渚会館	TEL 0294-53-6411
■ 例会日	毎週木曜日	12:30~13:30
■ 例会場	美かの	日立市大みか町 6-14-12

9 月は基本的教育と識字率向上月間です

9 月 9 日例会は取りやめです。

会長挨拶 佐藤邦裕 会長

皆さん、こんにちは。またもや新型コロナウイルス感染症の話で恐縮です。感染者の減少傾向が見られますが未だ非常事態宣言発令中、その中で当クラブにおきましては、例会の在り方を検討して、有志によるシステム構築で Zoom システムのオンライン参加と会場出席を併用したハイブリッド方式の例会体制が整い、9 月 16 日 (木) の例会より開催される運びとなりました。ロータリークラブの根本が例会にあると思われる中、休会が続いておりましたが、これによってある程度安全性が確保された例会が開催される事と思えますが皆様の更なる安全確保にご協力をお願いいたします。制約の続く世の中でストレスの溜まる毎日ですが、健康に留意して自由に動ける楽しい日々が来る事を願っております。9 月 26 日 (日) に順延変更されております海岸美化プロジェクトは、非常事態宣言発令中により、決行、順延、中止の決定がなされておられません。資材は準備されましたが、ガバナー事務所の決定を待っているところです。

新型コロナウイルスへのロータリーの対応 (紹介)

コロナワクチン接種の促進や感染拡大抑止に各地のクラブが取り組んでいます。ロータリー会員は、ポリオを根絶間近にしてきた長年の経験を生かして、保健当局による新型コロナウイルスやワクチンに関する情報伝達を後押しし、ワクチンに対する誤解をなくし、ワクチンの公平かつ平等な配布

を支援し、切迫した医療機関に防護具を寄贈するなどして感染拡大防止にあたっています。

ワクチンへの誤解をなくす

ワクチンへのためらいを抱く人にどう接するべきか? 6つのヒント

現在、世界中で新型コロナワクチンの接種が開かれており、ワクチン接種の様子を自撮りで写真に収め、ソーシャルメディアに掲載する人も多くいます。しかし一方で、ワクチンに懐疑的な人もいます。実際そのような人の数は多く、公衆衛生当局は懸念を抱いています。ワクチンに対するためらいは、しばしば激しい議論のトピックとなります。しかし、ワクチンは本来、議論の対象となるものではありません。人びとが積極的にワクチンを接種することは、世界保健に影響を与える最も重要な方法の一つです。



ひとの感情が入り込むトピックについて対話を始めるのは常に難しいものです。以下にご紹介するヒントは、あなたの大切な人がワクチン接種について新たな観点から考えるきっかけになるかもしれません。共通の価値を見つける: 私たちは皆、家族の健康、地域社会の繁栄、健康を自己管理できることなど、共通する願いをもっています。ワクチンを拒否する人を悪者扱いすることは、さらなる分裂を生み、事態を悪化させるだけです。あなたが予防接種を受ける理由を伝えてみましょう。それは例えば、高齢者など耐性が低い人にとってのリスクを下げるため、または自分の子どもを予

防可能な病気から守るため、といった理由があるでしょう。このような個人的な動機を伝えることで、相手との「人と人」のつながりが強まり、問題の核心に迫るのに役立ちます。

理解しようとすること：ワクチンを接種する理由がさまざまであるように、疑問を抱く理由もさまざまです。デジタル化された現代では、誤った情報が簡単に広がることがあります。中には複雑で、醜い過去の歴史に端を発するものもあります。例えば、周縁化されたコミュニティでは、何世紀にもわたって医療機関から不当な扱いを受けた歴史があります。このようなコミュニティの人びとにとって、医療機関を直ちに信頼するよう求められると、歴史的なトラウマがないがしろにされたように感じてしまうかもしれません。まずは相手の気持ちを理解することが肝心です。

「C」を見極める：世界保健機関（WHO）は、ワクチン接種へのためらいを誘発する3つの「C」、すなわち「Complacency」（リスクに対する気の緩み）、「Convenience」（時間、場所、金銭面などの利便性）、「Confidence」（信頼のゆらぎ）について概説しています。これに4つ目のC、つまり「Culture」（文化）を加えることもできます。ワクチン接種をためらう人の割合やその理由は、国やコミュニティによって大きく異なります。このような違いを認識することで、間違った推測を防ぐことができます。例えば、宗教上の理由でワクチンを受けない人がいる場合、安全性の統計をもって説明しても役に立たないかもしれません。

シンプルに事実を伝える：相手の誤解を正そうと躍起になることがあるかもしれません。しかし、それがかえって相手の疑いを深くしてしまうことが多々あります。ある情報が間違っていることを強調するのではなく、事実をシンプルに伝えましょう。例えば、HPV ワクチンの場合、「大規模な科学研究が行われ、ワクチンと自己免疫症状との間に関連性は見つかりませんでした」と伝えるだけでも効果はあります。

多数派の声を伝える：社会通念には強力な力があり、それを上手に利用することが肝心です。例えば、「まだ大勢の人がワクチンを受けていないので早く接種しよう」と説得すると、相手は「多くは接種していないのだから私も大丈夫」と受け止めてしまうかもしれません。より効果的に伝えるに

は、「多くの人がワクチンを接種しようとしている」こと、そしてその理由に焦点を当てます。大規模な予防接種はグループ全体で行うものであり、一人ひとりがそのグループの一員として歓迎されるものです。

問題と解決策を明確にする：プールの飛び込み台に立ったときなど、恐怖で体がこわばり、動けなくなってしまうことがあります。重い病気に対する恐怖も同じです。ただ病気の恐ろしさを伝えるだけでは混乱を招き、逆効果になりがちです。「これは深刻な病気」で、「ワクチン接種は簡単で効果的」という2つのポイントを同時に認識してもらうことが重要です。相手ができる行動（つまり、ワクチン接種）を明らかにすることで、相手の気持ちを支えてあげましょう。ワクチンは誰もが繁栄できる世界を築くための手段です。しかし、それにはチームワークが必要です。会話を通じて、ワクチンへのためらいを抱く人と接していきましょう。

『Rotary』誌（2021年9月号）に掲載された記事を翻訳・編集したもの

ワクチンの公平な配布

遠隔地にコロナワクチンを届ける

政府衛生当局担当者とともに、熱帯雨林の奥地へと向かう

ガイアナのデメララ・ロータリークラブの会員は、何十年ものあいだ疾病と闘ってきました。そして今、コロナワクチンを届けることで南米諸国のコミュニティを支援しています。遠隔地にある先住民コミュニティは、ワクチンがなければウイルスに無防備となります。クラブ会員は、ガイアナの熱帯雨林奥深くに分け入る重要な医療遠征を、30年近くにわたり実施してきました。そのため会員は村々の特定のニーズ、地域独自の知恵や風習などを良く把握しており、このクラブは近隣のクラブから「ブッシュクラブ」（茂みのクラブ）と呼ばれています。

今年初めにコロナワクチン接種が可能になった際、クラブは素早く活動を始め、地域を熟知した会員を頼って物流計画を立てました。まずムリタロとマラリにある先住民の村に焦点を絞って、地元保健省や



民間グループと協力して村人に予防接種を行いました。クラブ会員、医師、そして地元の看護師からなる予防接種チームは、川を 8km ボートでさかのぼって村々を訪れました。同クラブの 2021 - 21 年度会長であるバゲシュワル・ムリさんは、医療サービスが十分ではない地域社会でのワクチンの公平分配は、クラブができる適切な支援であると言います。「日ごろクラブで頻繁に行っている活動と一致したこの支援に携われることができ、やる気があふれてきます」とムリさん。



ワクチンを届けるため、政府保健当局とともに熱帯雨林の奥地に向かう準備をするクラブ会員

パンデミックによる移動制限で、村人は食べ物、衣服、医薬品、それに生活必需品を手に入れるために町に行くことができなくなりました。そのためクラブは、まず、最初にそれらの品々を集めて配給しました。予防接種チームはムリタロで 16 名、マラリで 24 名にコロナワクチンを投与しました。結果は控えめに見えるかもしれませんが、これでもかなりの労力を要します。クラブの奉仕委員長でこのプロジェクトの担当者であるランスロット・カーンさんは、これらのコミュニティではワクチン接種へのためらいが障壁になると話します。

新型コロナウイルスが南米に広がり始めた 2020 年 3 月、クラブはこの地域にマスクと消毒剤を届けました。それは、ポリオ根絶という世界的取り組みと、ロータリーの重点分野である疾病との闘いに対するコミットメントを村人に示すものとなりました。これにより、「ロータリーは人びとを見捨てない」という信頼が生まれたと、カーンさんは話します。「ポリオ根絶におけるロータリーの世界での立場は大きなプラスでした」最近の遠征では、チームメンバーが村長たちにワクチン接種を呼びかけました。「ワクチン接種をした村長は、ほかの住民もワクチン接種を受けるよう説得するにあたり、十分な自信を示し

てくれた」とカーンさんは言います。

また、ワクチンについての資料を配り、副作用について説明し、住民からの質問に答えました。安全性を理解してもらえるようクラブ会員がワクチン接種を受けている時の写真も見せました。

ムリさんは、予防接種キャンペーンへのクラブの継続的な参加が、より多くの人々がワクチン接種を受けるきっかけになることを期待しています。

ムリさんは次のように話します。「コロナワクチン予防接種推進活動にロータリアンが関わることで説得力が増します。私たちの取り組みがワクチン接種を増やし、信頼を生み出せるでしょう」

各国で実施された「環境にやさしい」 11 のプロジェクト（紹介）

水の保全

イスラエル：ハイファ・ロータリークラブ（イスラエル）とコーラルスプリングス・パークランド・ロータリークラブ（米国）は、グローバル補助金による環境教育プログラムを開始し、乾燥地帯に共通する「水の保全」という重要なトピックを通じて、異なる文化や信仰をもつ生徒たちを結びつけました。プロジェクトの第二段階には、60 校の生徒たちが参加しました。「脱塩」「雨水の利用」「漏水」など、水の保全とテクノロジーに関する研究課題を学校が選定。エンジニア、生物学者、物理学者などのエキスパートからの支援や設備を得て、教師と学生がサイエンスプロジェクトに取り組みました。さらに、26 回にわたる研修会で 150 人以上の教師が研修を受けました。



イスラエルでは、多くの学校が文化や宗教（ユダヤ教、イスラム教、キリスト教）ごとに分かれています。このプロジェクトでは、文化・宗教が異なる生徒が互いの学校を訪問したり、合同で工場見学を行ったり、エキスパートの講演を聞くなどして、互いの交流を深めました。

『Rotary』誌 2021 年 3 月号より

持続可能な農業

メキシコ：メキシコ先住民であるタラウマラ族の人びとは、同国のシエラマドレ山脈の斜面や溪谷で古代からあるとうもろこしや豆を栽培し、これ

を主食として暮らしています。しかし、先祖代々引き継いできたこれらの作物が、長引く干ばつによって全滅。その結果、飢餓が広がり、若者や子をもつ女性の多くは家を離れて都会で物乞いをしていました。環境保護主義者、そして誇り高さロータリアンとして、ロータリーが“環境”に直接焦点を当てたことは、自分の関心にぴったり当てはまります。チワワ・カンペストレ・ロータリークラブ（メキシコ）とセントオーガスティン・サンライズ・ロータリークラブ（米国）は、非政府団体 Barefoot Seeds と協力し、タラウマラ族のリーダーたちと対話する機会をもちました。その結果、種の保存設備、実践農場、追加の農業地を設けたほか、土壌を肥沃にするためのヤギの飼育、雨水の利用設備の設置、村人への研修も行いました。さらに、より長期的に種を保存できるよう、太陽光発電による冷蔵庫を購入し、1年目には少なくとも500人の人びとが恩恵を受けました。



『Rotary』誌 2021年3月号より
インド：サイクロン「Gaja」「Thane」「Nivar」による壊滅的な被害を受け、タミルナードゥ州のロータリー会員が、100日間で100万平方フィート分の苗を植えました。このプロジェクトは、日本の生態学者、宮脇昭氏が提唱し、従来の10倍の速さで木が成長する「宮脇方式」で植樹されました。ボランティアは約1.5mの深さの穴を掘り、肥料を混ぜた土を入れて苗を植え、保護フェンスを周りに張ります。近くの井戸からの水を灌漑で引きます。
rotarynewsonline.org より

その他のお知らせ・連絡事項

★★ 行事の申込受付案内 ★★

◆ 茨城海岸美化プロジェクト延期

9月26日(日) → 11月3日(水・祝日)

予備日 11月14日(日) 伊師浜海岸

再度、参加の出欠を確認しますので、事務局まで連絡をお願いします

◆ 第一分区 RC 親睦ゴルフ大会

11月14日(日) 日立高鈴ゴルフクラブ

今後のスケジュールのご案内

- 9月23日(木) **休会** 秋分の日
 - 9月30日(木) 例会 12:30~ 美かの
「**会員卓話** **今野紀仁さん**」
「**私とRC** **岩田秀邦さん**」
 - 10月7日(木) 例会 12:30~ 美かの
「**会員卓話** **照沼明美さん**」
 - 10月14日(木) 例会 12:30~ 美かの
「**卓話** **米山奨学生 馬雯さん**」
「**私とRC** **太田秀夫さん**」
 - 10月21日(木) 例会 12:30~ 美かの
「**会員卓話** **木村昌永さん**」
「**私とRC** **藤田 博さん**」
 - 10月28日(木) 例会 12:15~ 美かの
「**地域ボランティア・優良従業員表彰**」
「**卓話** **検討中**」
- 卓話・私とRCの発表者は例会場に出席願います**

編集後記

茨城県の緊急事態宣言が9/13~9/30まで延長となり、図書館も閉館になってしまった。月2回の図書館通いを続け、図書館で借りられる本は極力購入せずに欲しい本だけ購入するという30年近く続けてきた習慣が、コロナ禍により中断したままになっている。また、7月にカフェが開店した茨城県立図書館にもまだ行けていない。それと、今年の10月は、佐賀の母の米寿祝い(の年(数え年)であるが、皆が集まれる状況ではないので、満年齢で祝うことになりそうである。ワクチンパスポート発行等政府の行動規制緩和施策が世の中に定着して、ささやかな願い(一日中図書館に滞在できる/自由に帰省できる)が叶います様にと日々です。(ま)

発行：日立港ロータリークラブ(翌例会日)

編集：会報・雑誌委員会

松橋好徳 糸賀正俊 五来美奈

山口憲生 中野紀子(事務局)

URL：<http://www.hitachi-ko-rc.com>

E-mail：info@hitachi-ko-rc.com